

診療放射線技師に求められる経営的思考

佐野 幹夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長



風光る3月末、第67回診療放射線技師国家試験合格者の発表が行われた。

今年には2,094人の診療放射線技師が新たに誕生した。現在、全国には55,000人余りの診療放射線技師が業務に携わっており、その仲間に加わったことになる。合格された皆さまには、おのおのの医療現場で今後の活躍を期待しているとともに、できることなら全ての皆さんが診療放射線技師の職能団体である本会に、ぜひとも入会してくれることを望みたいものである。各会員の皆さまには、声掛けのご支援ご協力を切にお願いしたい。

近年、医療環境が激変していく中で、質の高い医療、標準化による医療事故防止、多職種間の連携によるチーム医療、一定のコストで顧客満足度の高い医療の提供、積極的な情報開示を行い「地域で患者から選ばれる病院」を目指さなければならない。一方、病院経営の立場から病病連携、そして病病連携による機能的役割分担、効率的な病床利用、業務の効率化、診療録の整備・管理の充実、さらには患者・医療従事者へ次々と展開される新たな政策による、新しい医療制度への意識改革を啓発して行かなければ将来病院は生き残れない。患者にとっては医療の質を落とさず、在院日数は短く、医療費は安く、満足度の高い医療の提供が求められているのが現実なのである。

一般的に医療に求められる経営管理とは、患者に必要な医療を円滑に行うとともに、自施設の理念（使命）の下、病院の価値を高めるために「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの経営資源を効率的に配分し、効果的に組み合わせることである。放射線部門における経営管理も同様であり、患者に直接接する「ヒト」（人的資源）がもっとも重要な要因であると考えている。すなわち自部門の方針として検査・治療における知識・技術の向上はもとより、患者のメンタルな部分へのフォローができる、おもしろいある医療従事者としてのスキルを身に付けた技師の育成を目指す必要性が求められている。

また今後の診療放射線技師に求められるものとして、技師としての能力以外に経営に生かせる能力を持つことも必要であると考えている。例えばスタッフ一人一人が関連する部門の検査の診療報酬・DPCなどの仕組みを理解し、患者サービス、医療の質に貢献しながらも効果的・効率的な検査体制の提案を行うことができることが必要である。またチーム医療の一員として多職種との連携を図り、検査体制・検査所見などについて話し合い・調整ができることが求められる。そしてスタッフ個々が自立して発動できる人材に育成できる技師が求められており、今まさに医療現場では必要とされている。これらを実現するためにも、スタッフに対していかにうまく働き掛けて、他の医療スタッフとチーム医療に協働させ組織を活性化させるとともに、自己の能力を発揮させられるような教育システム（教育、管理目標、人事考課）をいかに構築するかが主要な課題であると考えている。

そして「モノ・カネ」の視点で言えば、放射線部門は設備投資に対する効果が常に求められる。当然、病院経営の健全化には大きく関与しており、医療の質の向上とともに機器導入における採算性については重要な要因であろう。そして機器導入における意思決定要因として、診療面（臨床ニーズ・有効性）、体制面（病院が担う地域からの使命・導入意義）、運用面（安全性・機器操作性）、マーケティング面（地域ニーズ）、費用対効果面（採算性）、外部環境（DPC・診療報酬）などを検討して、より効果の得られるものを導入するべきである。しかし、戦略的に時には採算性を考えずに、将来を見据えて病院の大方針として地域医療の貢献を目的としたニーズの高いモダリティーに対し十分に分析を行い、対外的広報力、他院との差別化（病院の価値を高める）がどの程度の効果が見込めるのかなどの導入意義（導入コンセプト）を明確にし、不採算機器であっても経営戦略から積極的に導入すべき場合もある。全ては将来に向けての投資であり、「患者から選ばれる病院」になるためのブランド化に向けての取り組みの1つであると同時に、全病院職員のモチベーションも同時に上がる効果も見込めるのである。

全国にはさまざまな形態を成す医療施設があるが、本会会員の診療放射線技師が自施設において経営に参画し、放射線部門の長として活躍している人材が多く存在している。当然であるが、その職場の診療放射線技師の皆さんは経営的思考を身に付ける職場風土で育つことになる。

今後、本会の取り組みにおいて生涯教育の見直しが検討されているが、クリニカルラダーの導入を目的にマネジメントラダーも同時に検討されている。興味をお持ちの会員の皆さまには、毎年本会が開催しているマネジメント研修会に参加して大いに議論しようではないか。

次世代を担う会員、そして診療放射線技師のためにも…。